

精密加工技術・水処理技術の技術移転に関する

訪中団報告書(2011年7月11日～16日)

・訪中技術交流概要(執筆担当：中河、田島、宮崎)

1. 北京

7月12日(火) 10:00～12:00 清華大学環境学院ビル604会議室

清華大学環境系教授との技術交流と討論

(1) 面会者：環境学院 副院長 蔣建国 教授 Ph.D

環境科学&工程系 蔣翔 教授 Ph.D

精密機械&機械学系 蔣成穎 副教授 Ph.D

北京市持続可能発展促進協会 叶建東 会長

北京市持続可能発展促進協会 馬偉芳 秘書長・工学博士

日本の出席者：NPO 日中科学技術交流協会 理事 団長：中河 正勝

(株) マルト 代表取締役 社長 団員：田島琢二

(株) あぐりす 代表取締役 社長 団員：宮崎利久

財団法人 IBJ 理事長 通訳：吉永伊那

(2) 技術交流概要

1) 訪中団団長より訪中目的、当協会説明、フルブリッジビジネス事業等説明と質疑応答

2) 技術交流

<(株) マルト 田島社長による「精密加工技術」事例発表

<(株) あぐりす 宮崎社長による「アオコ・生ゴミの発酵技術即ちバイオ基
菌製造プラントによる土地改良材・植物根活性材の研究開発と中国での
実証実験研究開発」発表>

3) 質疑応答

<超精密加工技術関連>

・精密機械&機械学系 蔣成穎 副教授

電子顕微鏡の活用に大変なハード・ソフトが必要であることは充分理解された

<バイオ基菌プラントシステムを活用した土地改良材、水処理技術関連>

・環境科学&工程系 蔣翔 教授

アオコ対策に関する質疑応答が活発であった

於：北京清華大学2011.7.12



7月12日(火)12:30~13:30 宴会 清華大学招待宴 清華大学構内レストラン
<宴会での話題>

田島社長が陳成穎 副教授に日本の精密加工学会での現況について説明した。
清華大学に対する窓口は北京市持続可能発展促進協会 叶建東 会長を
窓口にします。今後具体的に提案がありましたら双方窓口経由で推進する

7月12日(火)15:00~17:00

(1) 応接者 北京排水集団科技研究開発センター技術保証部 常江 部長
北京排水集団・北京高碑店水環境科技研究開発センター
北京生活排水処理場見学

(2) 技術交流

<訪中団の目的・日中科学技術交流協会の概要説明・水処理技術>

(3) 質疑応答のポイント

- 1) 宮崎社長が、残渣処理は、本バイオ基菌により処理可能と回答。
- 2) 常先生は、今後残渣処理での提案があれば是非お願いしますとのことでした。持ち帰り検討し連絡すると団長が回答。

7月12日(火)18:30~20:30 北京源深節能技術有限責任公司主催宴

総経理・工学博士 滕樹龍先生

副総経理 趙岩先生

北京市持続可能発展促進協会秘書長 马伟芳 先生

(1) 宴会席上での話題

- 1) 中河団長より今回の訪中目的を説明
- 2) 滕樹龍先生は、東大で博士取得、陳 Yu 東大准教授の後輩。
- 3) 滕樹龍先生から北京源深節能技術有限責任公司の概要について説明。
省エネ、エコ技術のシステム関係の外国からの導入と設備・機器の設計販売
- 4) 中河が火力発電所のCO2削減プラントの概略説明をした。詳細資料を送付してほしい。導入を考えたいとのことであった。

2. 上海

7月14日 (木) 9:00~10:00 上海市科学技術協会との技術移転に関する意見交換

場所 : 上海科学技術会館ビル1F 会議室

面会者：上海市科学技術協会 上海科普教育展示技術中心・上海国際科技交流中心
主任 孟星先生(高級工程師)

上海市工程師学会 顧問 曹培新先生(高級工程師)

日本の出席者：NPO 日中科学技術交流協会 理事 団長：中河 正勝

技術移転に関する意見交換

(1) 上海市科学技術協会の活動について孟先生から説明を受けた。

当協会と同じ活動を展開していると感じた。

(2) 曹培新先生から「上海市科学技術協会と貴協会との技術移転(フルブリッジビジネス

事業)に関する意向書を締結したい」との提案があった。双方合意書の作成要

技術移転(フルブリッジビジネス事業)に関する窓口業務について大枠纏める。

窓口 双方からの技術移転の企業紹介 守秘義務 紹介料(手数料)

ビジネスに繋がった場合は個別契約締結 業務委託 その他

7月14日(木)(10:00~12:00) 上海市金属切削技術協会との技術交流

場所：上海科学技術会館ビル 401 会議室

面会者：上海市金属切削技術協会 弁公室主任 王金芝

” 副理事長 余礼品(高級工程師 = Senior Engineer)

上海市工程師学会 顧問 曹培新(高級工程師)

出席者：NPO 日中科学技術交流協会 理事 団長：中河 正勝

(株) マルト 代表取締役 社長 団員：田島琢二

(株) あぐりす代表取締役 社長 団員：宮崎利久

財団法人 IBJ 理事長 通訳：吉永伊那

上海興栄日語翻訳 通訳：韓興徳

(1) 当協会の紹介と訪中の目的紹介・・・中河団長の資料説明

(2) 上海市金属切削技術協会の活動紹介

学会活動要点

1) 切削加工技術の探究活動

2) 加工技術の普及活動

(3) (株)マルトー製品の紹介

主製品である切断機と研磨機に付きその使用目的(各種試料作り、光学顕微鏡・電子顕微鏡観察用試料作り)に沿って説明。

(4) 超精密加工技術の現状と超精密加工機械について紹介

於：上海切削技術交流 2011.7.14



7月14日(木)13:30~17:30 中日間水処理技術上海市シンポジウム開催
主催：中国科学院上海応用物理研究所
共催：上海市浄水学会

参加者以下

中国側 中国科学院上海応用物理研究所 胡钧 副所長
候铮迟 研究員：事務局
上海市科学技術委員会 綵今明 教授高級工程師
上海上水自來水特种工程有限公司 泰君堂 副總經理
元上海市副市長(元水道局局長) 陳
同濟大学環境科学与工程学院院長 周琪 教授
上海市蘇州河環境綜合整治領導小組弁公室 朱錫培 副主任
上海師範大学生命与環境科学学院 董亜明 教授
華東理工大学環境系 陸柱 教授
他 水処理技術研究機関、大学、建設、設備設計技術者
総人員 約150名

日本側 日本の出席者：NPO 日中科学技術交流協会 理事 団長：中河 正勝
(株)マルト 代表取締役 社長 団員：田島琢二
(株)あぐりす代表取締役 社長 団員：宮崎利久
財団法人 IBJ 理事長 通訳：吉永伊那

日中間水処理技術に関する上海市シンポジウム プログラム

1. 日本の水処理技術の現状と将来 NPO 日中科学技術交流協会理事・団長
中河 正勝

コンテンツ

- 1.1 世界の水環境問題
- 1.2 膜技術とプラント技術
- 1.3 水処理技術産学連携の現状と課題
- 1.4 最新の水処理技術の研究開発について
- 1.5 将来の基幹技術の展望

詳細に関しては省略

2. 蘇州河浄水大プロジェクトの推進経過報告 上海市蘇州河環境総合整治領導小組
弁公室 朱錫培 副主任

2.1 上海市地域の上水は蘇州河に依存している。

5~7年間に亘り蘇州河の一大浄化プロジェクトの推進過程を詳細説明。

3. 「アオコ・生ゴミの発酵技術即ちバイオ基菌製造プラントによる土地改良材・
植物根活性材の研究開発と中国での実証実験研究開発」講演

(株)あぐりす代表取締役社長 宮崎利久

清華大学での技術交流の内容と同じのため内容は割愛

4. 上海排水浄化施設の建設と運用メンテナンスシステムの構築

同濟大学環境科学与工程学院院長 周琪 教授

4.1 現在上海の排水浄化施設は、6ヶ箇所あり古い施設から改修計画を実施

4.2 新設の排水浄化施設の建設に当たっての課題の対応と世界水準の品質レベル目標に建設した経緯詳細説明

5. 今回の講演に対し主催者(中国科学院上海応用物理研究所 胡副所長)と上海浄水学会より当協会に「記念の盾」を頂いた。

6. 質疑応答&感想

6.1 膜技術に関する質疑応答が殆どだった。

6.2 感想

上海市の「水処理技術に関する研究所・大学、浄水場運用企業、施設設計企業、病院、河川浄化行政機関等々殆どの責任者が集まったことに関し主催者側も驚いていた位関心事である

又中国は、水の問題は深刻で問題の大小にかかわらず、ビジネスチャンスが多いことも実感した。

於：上海水科学技術交流 2017.14-15



中河講演

7月14日(木)18:00~20:30 主催者招宴

宴会での話題

- (1) 元上海市副市長 陳先生から「水処理技術に関する日本の現状と将来展望と題して中河先生に基調講演を頂き上海市を代表して感謝します。」と謝辞を頂いた。
- (2) 胡副所長からも同様の要請を受けた。中国科学院上海応用物理研究所が、水膜技術の研究を政府から指示されている。
- (3) 本件中河が日本に持ち帰り当協会の幹部に報告しますと回答してあります。
- (4) 中河が、「中国とのビジネスの基本は、日中双方にとってWin-Winの関係が成り立たつことである。是非双方協力し合って推進していきましょう。」と繰り返し強調しておいた。

7月15日(金)10:30~12:30 サイクロトロン研究所見学

中国科学院上海応用物理研究所 候部長案内

・総括(執筆担当:中河)

1. フルブリッジ・ビジネス事業(中国への技術移転)展開のプロセス

今回の訪中でビジネスに繋げるためのステップがあることが関係者との話し合いで判明した。フルブリッジビジネスに関しては、中国側に良く理解して頂いた。又ビジネスを効果的に展開する為には、日中双方の窓口が必要であることも各機関で了解された。但し基本事項の合意が必要である。

フルブリッジ・ビジネス事業展開は、以下のプロセスにしたがって実施することとしたい。

- (1) 北京・上海の訪問先との窓口設置に関し基本的に合意 双方の窓口の合意書締結要
- (2) 日方テーマの選定とビジネスモデルを作成しこれを中方窓口へ提案し、シンポジウムの準備と中方窓口を経由し関連企業選定と日程を調整し日方に通知する。
 - 1) 中方窓口に対し中国国家重点項目かをチェックして頂く
 - 2) 中方窓口が、適切な中国企業に参加依頼を促す
- (3) テーマ毎のシンポジウム(セミナー)開催と技術交流会開催
- (4) 窓口と共に商談に繋げビジネス交流と成約に向け交渉する
- (5) 契約成立後双方の窓口には、中方窓口には中方企業が、日方窓口には、日方企業が適切な手数料を支払うものとする。
- (6) 日本の産業展示会(2011年9月~12月)に参観し中国技術移転進出対象企業選定予定

2. 中国側との基本的合意に至った窓口業務とフルブリッジ・ビジネスのフローにつて
中国側窓口

